

8月

夏休みは川へ行こう！



川系男子の『川と人』めぐり No. 26～夏休みの北海道の川～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』  
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしようがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪おお牧場はみどり 草の海 風が吹く  
おお牧場はみどり よく茂ったものだ

(唱歌『おお牧場はみどり』 チェコ民謡, 訳詞 中田羽後)

2014年7月15日～23日にかけて北海道の河川を旅した。北海道の河川歩きの訪問はこれで4回目。7月に訪問したのは初めてである。

旅先に出ると、よく知人にポストカードを贈るので、今回は暑中お見舞いとしてポストカード風に短い文章で川巡りをご紹介します。

暑中お見舞い申し上げます □□□-□□□□

読者の皆さまへ

**7月16日 (石狩川、鶴川、沙流川)**

今日から北海道の川巡りスタートです。最初に北海道開発局に行き、北海道全道の地図をいただく、そこから川巡りをスタート。古賀河川図書館の古賀邦雄さんと一緒。

1日目、藻岩山により、札幌市内を流れる豊平川を展望。次に定山溪ダム、漁川ダムをみる、そのまま南下し、支笏湖を通り、苫小牧方面へ、鶴川を廻りつつ、沙流川へ、沙流川の二風谷ダムにアイヌ集落は沈む。

この日は帯広までいくつ30kmの長旅でした。

暑中お見舞い申し上げます □□□-□□□□

読者の皆さまへ

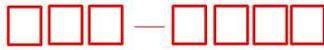
**7月17日 (十勝川、石狩川)**

帯広市内を出発し、札内川ダムへ向かう。途中、幸福駅をみつける。

札内川ダムの堤体にイワツバメが舞う。十勝川本川の千代田堰堤を見学、スケールの大きさに感動。そのまま上流部へ廻る。然別湖、糠平ダムを見学。石狩山脈を越えて石狩川上流部の大雪ダムへ、まだ生まれたての幼い石狩川を下る途中に層雲峡を通る。層雲峡の中に本流ダムという小さな電力ダムをみつける。

夜は当麻町の水田の中にある宿に泊まる。十勝平野では畑作地帯で蛙の鳴き声さえ、きかなくなったのに、旭川周辺は大蛙の大合唱の響く大稲作地帯です。

暑中お見舞い申し上げます



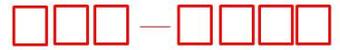
読者の皆さまへ



7月18日(石狩川、清滑川)

今日は当麻町からスタートし、当麻川を廻り、当麻ダムへ、立派なアース式ダム、洪水吐きの再開発工事を行っていた。その後清滑川を源流から河口まで下り紋別へ、道沿いにずつと川が流れているが、中流域の滝上町に入るまでは人が川に近づけるような場所はほとんどなく、手付かずに近い川、初めて清滑川の河口をみる。その後、旭川方面へ戻り、美瑛へ、あいにくの夕立にて景色はほとんどみえず、美瑛川、辺列川をみる。

暑中お見舞い申し上げます



読者の皆さまへ



7月23日(石狩川、小樽運河)

北海道最終日、札幌から小樽へ、小樽運河を見学、運河沿いに人が多く行き交う空間ができていて、この風景は今、福岡県の遠賀川で考えている水辺デザインに大いに参考になりそうだ。北国の夏の川巡りを終えた、移動距離は総計約1,800km、短い夏だからこそのみずみずしさがあり、よき川とともによき思い出の残る川巡りになりました。

暑中お見舞い申し上げます



読者の皆さまへ



7月19日~22日(天塩川)

今日からはミツカン水の文化センターの機関誌の取材で天塩川、10月に発行の水の文化誌に天塩川の特集が載るので楽しみにして下さい。天塩川の源流から河口まで4日間かけて旅しました、北の大河にカヌーが何艘も行き交う姿は圧巻でした、ここで同行者の古賀さんが詠む。

夏ありて 雲ありてこそ 函の岳  
夏雲や 消えてくれよと 利尻富士  
五人の夏 旅終えし 天塩川

古賀邦雄詠む



【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入り川遊び。